

4 Hクラブ活動の活性化に向けた取組

～各組織において3つの目標を設定～

近藤啓祐（東三河農林水産事務所田原農業改良普及課）

【平成26年7月16日掲載】

【要約】

近年、管内の4 Hクラブ（※）の活動内容が画一的、定例的となり、その活動に対し受動的な姿勢のクラブ員が多くなっている。この状況を変えるため、25年度から4 Hクラブ6組織が共通、独自、チャレンジの3つの活動目標を設定し、目標達成に向けてそれぞれが取り組むことでクラブ員の自主性を高め、クラブ活動が活性化するように支援した。その結果、4組織が3つの目標を全て達成し、自発的な新規活動への取組もみられるようになった。

※4 Hクラブとは

これからの農業を担う若者が地域社会において交流と親睦を図りながら、農業の生産技術や経営を学ぶとともに経営上の課題を解決する力を養うことを目的としてつくられた学習グループ

1 はじめに

平成26年4月現在、管内には田原、赤羽根、福江・泉、中山、伊良湖岬の5つの単位クラブと単位クラブを束ねる田原市4 Hクラブ連絡協議会（単連）の6組織があり、43名のクラブ員が加入している。ここ数年、各単位クラブでは視察研修会や共同栽培などの学習活動、保育園を対象としたサツマイモ定植・収穫体験などの地域貢献活動を、単連では部門別研修会、ジャンボカボチャコンテスト、男女ふれあい交流会等を実施している。しかし、活動内容は画一的、定例的となり、その活動に対し受動的な姿勢のクラブ員が多くなっている。そのため、各単位クラブと単連が3つの活動目標（共通、独自、チャレンジ）を設定し、目標達成に取り組むことでクラブ員の自主性を高めるようにした。共通目標は全てのクラブで最重要な事項を挙げ、独自・チャレンジ目標は各クラブの活動が現状より活性化するような目標を設定するように誘導した。

2 活動目標の設定と目標達成に向けた支援

(1) 活動目標の設定

組織の活動目標をクラブ員同士が協議し、決定できるよう、定例会や役員会の場で普及課担当者が助言を行った。5月までに共通の活動目標と全ての組織が独自・チャレンジの活動目標を設定することができた。

(2) 目標達成に向けた取組

活動目標を達成するための具体策の策定支援、定例的な行事については新しい要素を取り入れるよう農業改良普及課担当者が助言を行った。また、クラブ員間の役割分担を明確にし、毎月行う定例会で進捗状況を確認することで、クラブ員それぞれが目標を意識し、積極性を持って活動するように働きかけた。

3 結果

各組織の活動目標及び達成評価は以下のとおり。

表 1： 各組織の活動目標及び達成評価

組織名	組織活動目標	評価*
共通目標	新規クラブ員候補者全員に対し、クラブ員が直接勧誘を行える。	○
田原4Hクラブ	(独自) 共同栽培(スイートコーン、キャベツ)を実施する。	○
	(チャレンジ) 他の4Hクラブとの交流会を開催する。	△
赤羽根4Hクラブ	(独自) 定例会(4月～1月)の出席率80%以上。	○
	(チャレンジ) ほ場勉強会を開催し、先進的な農家のほ場へ行く。	○
福江・泉4Hクラブ	(独自) クラブ員同士のほ場巡回を当番制で毎月実施できる(定例会で計画、翌月に実施)。	△
	(チャレンジ) 情報交換ノートを作成して、クラブ内で活発な情報交換が行える。	△
中山4Hクラブ	(独自) 共同栽培(キャベツ)を実施する。	○
	(チャレンジ) ジャンボカボチャについて、保育園の指導に月2回以上行く。	○
伊良湖岬4Hクラブ	(独自) 昨年よりもイベントに参加する。	○
	(チャレンジ) 保育園のカボチャが出品できるよう支援する。	○
田原市4Hクラブ連絡協議会 (単連)	(独自) ジャンボカボチャコンテストで100人以上参加、100点以上の出品ができる。	○
	(独自) 男女交流会を2回開催する。	○
	(チャレンジ) 昨年度よりも各イベントの参加率を上げる。	○

*4Hクラブ員が目標達成度を評価 ○：達成できた、△取り組んだが、十分満足できる結果が得られなかった、×取り組めなかった

(1) 目標達成へ向けた積極的な行動

共通目標の「新規クラブ員の勧誘」では、各組織のクラブ員が候補者の家に出向いての直接勧誘、定例会への試行参加誘導などに取り組んだ結果、10名が新規に加入した。加入人数は目標を達成し、加入後のクラブ活動がスムーズに行えた。

また、ジャンボカボチャコンテストの開催に関する目標に関しては、単連では、一般参加者の増加に向け、参加募集のポスター掲示やチラシの配布を行ったほか、クラブ員の参加を促すため、新たに各クラブの上位3名の重量の合計を競う「単位クラブ部」を設けるなど工夫を行った結果、過去最多の出品数に繋がった。各単位クラブでは、月に1、2回程度(5～9月)、保育園への栽培指導を行った結果、参加した全ての保育園がコンテストに出品できた。クラブ員からは「目標があることで活動に対する意識が明確になり、積極的になった。」との感想があった。

(2) 自主的な組織運営への発展

各組織において、目標達成のために、クラブ



写真1
新人クラブ員が全員参加した歓迎会



写真2
過去最多の100点以上の出品があった
平成25年度ジャンボカボチャコンテスト

員一人一人の役割分担を明確にし、定例会のつど、目標の進捗状況を確認することで、それぞれが責任を持って活動することができ、クラブ員同士の意見交換も活発になった。また、新たな活動として、目標達成に取り組む中でクラブ員からの発案で新規クラブ員のは場視察が実施でき、専門的な知識や技術の習得の機会となった。さらに、今年度は単連の呼びかけで、「農地集積についての勉強会」を定期的を開催するなど、自発的な新規活動への取組もみられるようになった。

4 今後の発展事項

本年度も、6組織の新たな活動目標設定を支援できた。すべての組織が3つの目標を達成できるように、それぞれの役割分担を明確にし、定例会等で取組状況を把握し、PDCAサイクルに基づき点検と改善を行い、クラブ員の自発性をさらに引き出させるよう支援していく。